

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームさわやか)

事業所番号	0692700024		
法人名	株式会社 アクト		
事業所名	グループホームさわやか		
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字萩生4284-3		
自己評価作成日	令和 4年 12月 30日	開設年月日	平成 24年 2月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、畑や花壇等があり、旬の味を楽しんで頂いている。  
当施設のケア理念である「お客様の尊厳を守ります」「心に寄り添い笑顔で接します」の下、各入居者様がこれまで培ってきた生活スタイルを尊重し家庭的な雰囲気の中で、家族のように過ごして頂けるよう一人ひとりの気持ちを受け止め楽しく張り合いのある生活を送って頂けるよう支援しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 1月 24日	評価結果決定日	令和 5年 2月 8日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月の会議で、理念をもとに利用者の希望に沿った関わりができていのかどうか話し合い、一人ひとりの声に耳を傾け個別のケアで応えられるよう取り組んでいます。家族等とも連絡を密にして信頼関係を築くと共に、プラン作成時にも可能な限り同席してもらい利用者の状態や思いを共有しています。コロナ禍で制限がある中でも「外に出かけたい」との要望が多く、個別に又は少人数でドライブ(感染症対策をして)を楽しみ笑顔で帰所しています。また日常生活では家事活動や畑作業で残存能力を発揮してもらい、風船バレーや豆掴みなどをレクリエーションに取り入れながら、アットホームな雰囲気の中毎日を楽しみ活動的に過ごしている事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 外 己 部 項 目		自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体が周知できるよう、施設内に掲示している。又、会議の場で職員間で共有する機会を設け、実践に繋げている。	事業所理念とケア理念を運営推進会議の次第に毎回記載して意識確認すると共に、毎月のケア会議で利用者の思いや対応について話し合い、理念に沿って尊厳を守り、寄り添うケアを実践して穏やかな暮らしを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により自粛。	コロナ禍が続き、毎年行われていた祭りなどの地域行事も全てなくなり、交流も自粛を余儀なくされている。毎月自治会長が広報紙を届けてくれたり、運営推進会議の委員として協力を得るなど、今できることを継続して今後に繋げたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、事業所の取り組みや日々の暮らしを紹介し、認知症の方の支援の方法や理解を深めてもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に開催できたのは1回のみ。その他はコロナ感染対策の為中止になり、資料のみ配布して報告した。	対面で行われた1回目の会議では映像で利用者の様子や暮らし方を観てもらい意見交換できたが、次回以降は会議資料(入居状況・活動・ヒヤリハット事故報告)を管理者が委員の方それぞれに持参して現況を伝えるのみとなっている。	書面開催でも活動内容(映像に代わる)がわかる資料作りをして、委員から意見や感想がもらえるような取り組みに期待すると共に議事録の充実を図ることも望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の方へ伺った際にホームの現状を伝えたり、分からない事、曖昧な事に関しては問い合わせを確認している。又、運営推進会議時にも意見を頂いている。知識の向上に努めながら連携を図っている。	町担当者からは運営推進会議への出席で事業所の実情に理解をもらっており、コロナ禍において感染した時の対応や指導、ワクチン接種などで連携を図っている。また社会福祉制度を利用している方の現状確認に定期的な訪問があり協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は施錠せず、鈴やセンサー等で対応している。利用者一人ひとりの状態を把握し、安全に配慮しながら、身体拘束をしない工夫に取り組んでいる。	施設長の下で虐待防止委員会を開催し、ヒヤリハット・事故報告の検討も行っている。毎朝のミーティングで利用者の様子を申し送りし、ちょっとした変化も職員間で話し合い情報を共有してケアの統一を図っている。帰宅願望の強い方にはドライブなどで落ち着いてもらい、寄り添う介護を心掛け自由な暮らしに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの実践の中での無理強いや声掛けも場合によって虐待に繋がる事を理解し、どのように対応・声掛けしていくか内部研修会を行い理解を深めた。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当ケースはないが、必要性があれば家族への説明を考えている。内部研修を行い理解を深めた。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、文書と口頭にて十分な説明を行い、不安な点や疑問点を聞きながら、理解・納得を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見は生活の場でその都度伺い、家族の意見は面会時や運営推進会議・提案できる機会を設け、個々の気持ちを汲み取り、運営に反映させている。	家族等にはケアプラン作成時の話し合いにできる限り同席してもらい意向を聞いており、こまめな電話連絡で受診結果や日頃の様子を伝えて信頼関係を深めている。また利用者の「出かけたたい」などの要望には個別に対応して思いに添えるよう取り組んでいる。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議、朝夕の申し送り時にお茶を飲みながら意見を言える関係性になってきている。職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の会議など意見交換をしながら、専門職としてのやりがいを感じられるようにしている。労働条件に関しても話し合いの機会をいつでも設けている。時間外の手当てが支給されている。職員の状況を把握している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナ禍もあり参加しようとしていた研修会が中止になった。徐々に研修会に参加できるように配慮している。	ケア会議を内部研修や伝達講習、利用者の検討会の場にして、職員間で意見を出し合いより良いケアの向上に努めている。職員同士コミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境で資格取得などの応援体制も整えている。	コロナ禍にあるものの研修にはリモートや動画配信などもあり、会議の場を活用して年間で計画的に実施されることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	直接的な交流はなかった。	他事業所の管理者と電話等で意見交換をしている。特にコロナ対策では互いに参考事例を出し合い情報交換しながらサービスの質向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心+A33:G41と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人との面談時に不安や要望を伺い、希望を反映させた介護計画を立案し、安心した生活を送れるよう関係構築に努めている。複雑な家族関係の方も増えており入所前に担当ケアマネジャーの意見を参考にしながら丁寧かつ慎重な対応を行っている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現状での不安を汲み取れるよう家族の立場に立って考え、気軽に話しかけて頂けるような雰囲気作りを心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集に努め、客観的な視点と本人、家族の要望を照らし合わせ、優先すべきサービス内容を思索し実行していく。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に調理、洗濯干し、洗濯たたみ、食器拭き等手伝いをして下さっている。笹巻作り、干し柿作りでは、分からない職員にも丁寧に教えて頂いた。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の関係で面会や行事等、ご家族と共に過ごす時間は減ってしまったが、短時間の面会や電話での近況報告を行うことにより、本人とご家族との関係も継続できるよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や、場所を把握して、関係性が途切れないようにしている。本人への意思確認を行いながら、行きつけの美容室などへの外出など家族と協力しながら支援に努めている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性・本人の意思を尊重しつつ、良好な関係を築けるよう必要に応じて職員が介入し、協力し合っている。時には喧嘩もあるが、お互いの意見をぶつけ合う場面が持っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も転居先への必要な情報提供・交換や相談援助に努め、関係性が途絶えないようにしている。ご家族が退所後も顔を出してくださる関係ができています。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の言語を観察し、思いや意向を汲み取り、職員・家族間で話し合う事で暮らしやすい環境作りに努めている。個別に要望・要求に対して対応できるよう配慮している。		毎日の茶話会で利用者の声を傾聴し、会話の中から得た言葉をそのまま記録して思いや意向を職員間で共有している。また居室や浴室で1対1の時に本音が聞かれることもあり、貴重な情報としてサービスに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集や施設からの情報提供により、生活歴・馴染みの暮らしを把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に状況を判断し、本人・家族や医療機関の意見も考慮しながら職員間で情報を確認・共有をし対応を検討する。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員の意見をアセスメントし、ケアプランに反映させている。また定期的な見直しを行う事で、本人の状態に適した介護計画を提供できるように努めている。		本人・家族等の意向をふまえ、計画作成担当者が現状を把握し、サービス状況の経過を見て居室担当者や検討しながら介護計画を作成している。サービス担当者会議には可能な限り家族等から同席してもらい、当日の出勤職員皆で意見を出し合い利用者の状態に合わせたプラン作りに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や気づき等も考慮したうえでカンファレンスやミーティングで話し合いを行う事で情報共有及び介護計画の見直しに繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の関係で様々な通年行事も様変わりしてしまい、今年は地域との交流がほとんどできなかった。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医を選択して頂き、必要に応じて情報提供・情報共有を行っている。	ほとんどの利用者が入居時に近くの法人系系列協力医療機関にかかりつけ医変更を希望し、受診には職員が付き添っている。結果は家族や職員間で共有し、看護師の施設長が毎朝夕訪れ健康管理に気を配り、利用者や家族・職員の安心に繋がっている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師の為24時間対応が可能になっている。ミーティングにも参加し日々情報共有している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設として持っている情報を提供し早期退院・治療に貢献できるように努めている。電話などで医師・看護師と情報交換をしている。又助言を頂いている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期においては、経口摂取ができる状態までを目途に、看取りは行えない事をご家族に伝えている。状態変化時などに再度、意向を確認しケア方針に反映させている。	契約時に「グループホームさわやかにおける重度化対応に関する指針」を説明し看取りはしない事を伝えている。食事量が減ってきた場合は医師と相談の上家族と話し合い、特別養護老人ホームなどの他施設に利用申請を促したり、重度化し食べられなくなった場合は入院になるなどの選択肢を示して意向を確認し、でき得る限りの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットの記載をし、ケア会議時に再度対応策を話し合い、事故防止に努めている。救急処置及びAED講習受講している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同設の有料老人ホーム、居宅介護支援事業所と合同で、災害訓練・火災訓練を実施。	今年度は消防署立ち合いの下、隣接の有料老人ホーム・居宅介護支援センターと合同で水害を想定し2階への避難訓練を実施している。利用者情報も含めた非常持ち出し品はすぐ持ち出せるよう袋にまとめ、夏・冬の非常招集訓練も行い有事に備えている。	避難訓練の際には、計画に対しての実施状況やかかった時間・消防署の講評・職員や利用者の反省点などを記録し改善策を話し合い次回の訓練に反映し、災害に備えていくことを期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーや誇り、意思を大切に、人生の先輩として接し、信頼関係作りに努めている。	生活歴や日々の会話から利用者の得意なことを引き出して趣味や家事など活躍の場を提供し、畑仕事や笹巻づくりなど教えてもらうことも多く、人生の先輩として敬っている。一人ひとりの違いを尊重して、その方のペースで生活できるよう見守っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に選択・表出する機会を場を設けている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし意向を尊重し、要望に応じ個別に対応し支援を行っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選択して頂くなど、本人の意向を尊重している。2ヶ月に一度の理美容室の訪問があり、希望に沿って行って頂いている。行事の際には本人と担当職員で相談し、衣類の選択を行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に得意な調理、季節の料理、おやつ作り等をして頂いている。食事に関する役割の中で盛付けなどは考えながら一人ひとり均等に盛付けてをして頂いている。行事では出前を取り入れ、気分転換を図っている。	朝夕は食材宅配業者を利用し昼食は施設長の献立で三食職員が調理している。誕生会や季節毎の行事には利用者の希望で寿司やラーメンの出前を取ることもあり、郷土料理や畑で収穫した野菜も登場し「おいしいね」の声も聞かれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活歴や介護経過から状態を把握し、個々に合わせて食事形態を変え提供し、安全を確保している。食事摂取が難しい方は医師の助言、指示により提供。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて支援している。食事前には、口腔体操を取り入れ、ムセ、つまりを予防し嚥下を促進する体操を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導や個々のサインを見逃さないように、排泄表を用いて、出来る限りトイレでの排泄に繋げている。	自立排泄の方や介助が必要な方など状態に合わせて声掛けし、おむつ使用の方でも訴えがあれば2人介助でトイレで排泄できるよう支援している。失敗した時は「大丈夫、気にしないでいいよ」など心を楽にして誇りを傷つけないようにしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物や牛乳、果物の提供をしている。ストレッチ体操を取り入れ、自然に排泄できるようにしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基準としながら、出来る限り個々の希望に沿った入浴計画を立てている。拒否のある方にはタイミングを見計らった声掛け誘導をしている。入浴剤を使用し楽しんで頂いた。	転倒防止に滑り止めマットなどを使用してさりげなく全身観察しながら安全に配慮し、シャワー浴の方には湯のかけ方を工夫して、温まってもらっている。同性介助希望にも応え、浴室内では職員と1対1でゆっくり本音の会話ができる時間となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペース・体調に合わせて安眠できる環境整備に努めている。生活リズムに合わせて休息の支援を行っている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時、口頭や申し送りノートで情報共有されている。服薬まで2回の確認や、薬袋を1日保存し飲み忘れがないか、飲み間違いはないか読み上げと共にダブルチェックしている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別対応でドライブの実施。気分転換を図った。家事活動の支援。塗り絵やかた、歌等の活動支援。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でいつもより外出は少なかったが個別対応でドライブに行き車の中から季節の花の見学をした。	感染症対策で少人数に分かれ、花の公園などにドライブに出かけ車窓から景色を眺め、人出がない時は外に出て自然の中で気持ち良い時間を過ごしている。畑仕事が好きの方は外気や土に触れ、育てた野菜が食卓に上り収穫の喜びも味わっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行かれた際は好きな物を買って頂き、立替請求している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話機での対応で、家族と常に連絡が取れる状態となっている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物・造花を飾り、花の好きな方に喜んで頂いている。食堂・ホールは季節に応じた装飾をしている。冬期間は積雪等で神社への参拝が難しい為、手作り神社（さわやか神社）にて参拝して頂いている。	1日のほとんどをデイルームで過ごす方が多く、窓からの眺めと職員手作りの装飾に季節を感じながら、お茶の時間には職員も一緒に座って利用者の声を聴いている。利用者間の関係性に気を配りながら、風船バレーや豆掴みで競い合ったり声を合わせて歌ったり、楽しみのひと時となっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやマッサージチェアを設置し、個人で思い思いに過ごされている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用していたの物を持って来て頂き、本人や家族と話し合い、相談し、意向に合わせた支援を行っている。	居室にはベッドやクローゼットなどの家具が備え付けてあり、他に必要な家具や道具を持ち込み本人の好みや身体状況に合わせて配置している。立ち上がりが不安定な方や不穏な方にはすぐ駆け付けられるようセンサーや鈴を利用し、こまめな見廻りで安全に暮らせるよう心掛けている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、トイレ、浴室、廊下には手すりを設置。転倒予防の鈴、センサーの設置や見守りの強化等、予防策を講じてより安全に過ごせるよう配慮している。		